

親子で触れ合い遊びを楽しもう

～ 遊びは脳の栄養素！ ～

乳幼児期にとって
身体をたくさん動かす遊びや、いろいろな物に触るとい遊びはとても大切です。

子どもにとって[遊び]がどのように大切なのか
健康科学大学の原國 優子先生をお迎えしてお話していただきます。

親子で触れ合って身体をたくさん動かして遊んでみませんか？

☆日時 平成26年6月26日(木) 午前10:00～11:30

☆場所 石和第五保育所 ホール

☆講師 健康科学大学健康科学部
作業療法学科 准教授 原國 優子先生

☆定員 10組

☆持ち物 お子さんの身の回りの物・飲み物



※原國 優子先生のプロフィールは裏面をご覧ください※

申し込み、問い合わせ先：子育て支援センター きっず☆いさわ ☎055(225)5057



主な経歴

学歴 1981年 国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院卒業
2010年 佛敎大学文学部人文学科(佛敎哲学)中退
2012年 白梅学園大学大学院 修士(子ども学)

職歴 1981年 東京小児療育病院勤務

24年間、発達障害分野作業療法の臨床に関わる。

(肢体不自由児、重症心身障害児・者、学習障害、ADHD、自閉症児・者と保護者の方々との関わりを通して、多くの事を学ぶ。)

2005年 日本リハビリテーション専門学校専任教員に就任

在職中には地域支援(児童デイサービス、保育園・学校支援、行政での発達障害児に対する集団療育、NICUの作業療法等に関わる。)

2013年 健康科学大学に就任

専門分野

発達障害分野作業療法、人間発達学、感覚統合

主な担当教科

人間発達学・発達障害の作業療法

主要研究テーマ

- ・発達障害の作業療法
- ・感覚統合と発達支援
- ・地域における発達支援(主に乳幼児期の支援)

所属学会

日本作業療法士協会
日本感覚統合学会
日本自閉症スペクトラム学会
日本ボバース研究会

主要研究実績

- ・わかってほしい! 気になる子、単著、分担、学研、2004
- ・短期療育講座を地域に繋げる支援～SI視点による多職種療育を通して～、感覚統合研究、Vol.14.2012
- ・原國優子：保育・子育てに感覚統合の視点を活かす、チャイルドヘルス Vol.16 NO.10, 診断と治療社 28-30(2013年10月)
- ・原國優子：感覚統合 Q&A(改正第2版)(土田玲子監修、石井孝弘、岡本武巳編集), 協同医書出版社,(2013年9月)

教育・研究に対する考え方

発達障害は最近、メディアにも多く取り上げられています。発達障害の問題は、二次・三次障害として、いじめ、虐待、非行等の社会的問題に繋がり、精神科にもリンクしていきます。4分野(身障、精神、発達、老年期)を学ぶ作業療法士が貢献できることは多いと思っています。又、求められていることを実感しています。

作業療法士を目指す皆さん、発達障害の作業療法を学びませんか!

こども達からたくさんの生きる力と笑顔を貰えます。生きることは大人が考えるほど複雑ではなく、本当はシンプルなのだ。「普通」って思っていたことは本当はあるようでなくて、みんな違うんだ。皆違うからこそ、面白いんだ等、子供たちは教えてくれます。

こんな、楽しい仕事はないと思います。一緒に学びましょう。

その他

現在、日本感覚統合学会、認定講習会 講師・インストラクターをしています。感覚統合の視点は子どもの発達において何が大事かを提言してくれます。多くの人に知って欲しいと思っています。

好きなミュージシャンは、サザンオールスターズ。